

「植物が旅をする時」を読んで

三年生

(親)

読んでどう思った？

(子)

タンポポは茎で息をされていて、すごいなあと思った。

(親)

種が遠くまで旅して、違う場所で育つことについてどう思う？

(子)

人間でいうと赤ちゃんのころなのに、一人で旅していてすごいと思った。

(親)

あなただったら一人で旅できる？

(子)

できる！自分なら勇気があるから頑張れる。

(親)

生まれてから一人ぼっちで遠くまで旅して、たどりついた場所がどんな環境であっても成長しようとするのはすごいことだよね。

(子)

この話を読んだら通学路とかにある植物のたねがどこから来たか気になってきた！

(親)

今度調べてみよう！

「バンビ」を読んで

三年生

(子)

バンビのお母さんがりょうしにてっぼうでうたれてバンビのお母さんがしんでしまっただけでかわいそうでした。

フアリーンがりょうしに犬においかけられた時、バンビがフアリーンをにがしてあげたのがいいと思いました。

バンビは王さまになったからすごく強くてすごくやさしい王さまになると思います。

(親)

産まれたてのバンビを見た森の動物たちが会いに来るほど、バンビのお父さんお母さんはしたわられていたんだな。

バンビの大好きなお母さんが猟師の鉄砲にうたれたところはとても悲しく、娘とも可哀そうだね。と話をしました。

最後は子どもも産まれて幸せになれたバンビ。ハッピーエンドで良かったです。



ぼくは、バンビのお母さんが人間に、てっぼうでうたれてしんだところが悲しかったです。でもバンビがお父さんと仲間たちにささえられながら強く生きていったことは、とてもすごいと思いました。

なぜなら、ぼくだったら前を向いて生きられないだろうと思うからです。それと、動物にひどい事をする人間をはずかしいと思いました。

動物のいる森をもやしたり、動物をむやみにころしたりしてはいけないと思います。

ぼくなら、バンビがバンビたちの世界でしあわせにくらしていけるようにそつとおきます。

バンビは仲間を助けるとてもやさしいせいかわるので、これからもたくさんさんの森の動物をまもりつばな王様になると思います。

ぼくもバンビを見習って、少しでも強く、やさしい人になれるようどりよくします。



(親) 「読んでどうおもった？」

(子) 「さいしよはパスってなになんか思ってたけどおはなしを読んでみるとみるくんがのっていたパスはほんとうは、パスだったからおもしろいなあと思った。」

(親) 「どういう所がおもしろいなあと思ったの？」

(子) 「えっとなんかパスっていう名前がおもしろいなあと思ったから。」

(親) 「そうなんだ。私は、子どもがいやな事をパスって言ったらパスできるのがいいなあって思ったよ。いやだけど、がんばってしてる事もみんなあると思うから。あなたはいやだけどがんばってしてる事はある？パスしたい事ある？」

(子) 「パスしてみたいことは、やっぱたいへんやしゆくだいかな。」

(親) 「あつ、そうですね。三年生になってむずかしい字をたくさん習ったり、わり算が始まって、がんばってるなあと思うよ。もしパスしたい事があった時は、相談してほしいなあと思ってるよ。」

(子) 「そう、三年生になったからきょうかもふえてきたし、わりざんや、むずかしい字をたくさんならうからほんとうにパスしたくなったからそうだんするね。」

「植物が旅をするとき」

三年生

本をよんで植物すべてにいのちがあつて、大切にしないといけないと思いました。  
たんぼの花たばの数が多いことにおどろきました。  
すべての植物は、お母さんのおなかの中からはじまり、せいちょうしていきます。

自分の家の近くにもたんぼ、どんぐり、木や草がたくさんあります。  
この植物たちが生き続けていけるのは地きゅう全体に広がっている風、雨、空気のおかげだと思います。

植物が一番あんしんして生活できるタネのときを大切にこんど、木、草の実、タネをもしみつけたら、手のひらの上のせて、生きた植物の赤ちゃんがいることを思いながら、見つめてみようと思います。



「植物が旅をするとき」を読んで

三年生

(親) 「このお話を読んでどう思った？」

(子) 「植物が生息地を広げるために工夫しているのがすごかった。」

(親) 「どんな所がすごいと思った？」

(子) 「わた毛やつばさや鳥に食べてもらうなど、どこで覚えたのか、どうやって考えたのがすごかった。」

(親) 「でもさあ、植物だから、覚えたり、考えたりと違ってできないと思う。だから自ぜんな方ほうでこういうふうになつていったんじゃない？」

(子) 「たしかに、言われてみればそうだね。」

(親) 「たんぼのわた毛を見つけて、ふうーってふいたことあるでしょ？ わたしたちは楽しくてわた毛をふいたりしているけど、そのことによつてわた毛はたびをして次の生息地を見つけてるんだよね。わたしたちも植物のたびのお手伝いをしてることがあるね！」

(子) 「うん。あとオナモミ(くつつきもつつき)が服についてそれを手ではらつて、落ちた所がオナモミの生息地になるなあ。それもお手伝いだね！」

(親) 「ふだん、植物についてそんなに考えたことなかったけど、身近な所で色んな方ほうでそだっているんだね。これからはもっと植物に目をむけて考えていこうね。」

(子) 「わかったよ。これから植物たちをもっと大事にしていこうね。」